

2025年10月27日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL：078-302-7075)

大阪公立大学との共同研究成果に関するAACR-NCI-EORTC International Conference on
 Molecular Targets and Cancer Therapeuticsでの発表のお知らせ

当社は、大阪公立大学大学院 木下誉富教授との共同研究の成果を、2025年10月22日から10月26日まで米国マサチューセッツ州ボストンで開催されたAACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeuticsでポスター発表しましたので、以下にその概要をお知らせいたします。

発表の概要

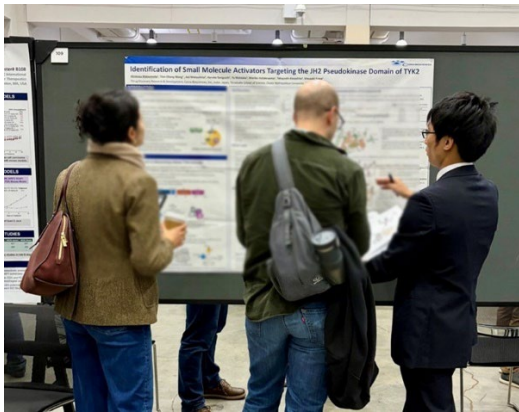
ポスタータイトル	Identification of small molecule activators targeting the JH2 pseudokinase domain of TYK2
発表者	Hirokazu Matsumoto ¹ , Tien-Cheng Wang ¹ , Aoi Matsushita ² , Haruka Taniguchi ¹ , Yu Nishioka ¹ , Mariko Hatakeyama ¹ , Takayoshi Kinoshita ² , Masaaki Sawa ¹

¹Drug Discovery Research & Development, Carna Biosciences, Inc., Kobe, Japan, ²Graduate School of Science, Osaka Metropolitan University, Sakai, Osaka, Japan

- 抗PD-1抗体等のがん免疫療法は、免疫システムを活性化することで、がん細胞を攻撃して減らすことができる新しい治療法です。しかし、がん免疫療法が有効な患者は限られており、新しい治療法が望まれています。
- ヤヌスキナーゼ (Janus Kinase, JAK) ファミリーの一員であるチロシンキナーゼ2 (Tyrosine kinase 2, TYK2) は、免疫調節において重要な役割を担っています。TYK2阻害剤は自己免疫疾患に対して有効性が確認されており、TYK2選択的阻害剤であるdeucravacitinibは、すでに乾癬治療薬としてFDAの承認を受けています。
- 一方で、TYK2欠損マウス (TYK2が働かないマウス) では、腫瘍免疫がうまく機能せず、腫瘍が発生することが報告されており、TYK2シグナルが抗腫瘍免疫において重要な役割を果たしていることが示唆されています。
- このことから、TYK2の活性化は腫瘍免疫の増強につながる可能性があり、TYK2を活性化する薬を

開発することができれば、がん治療における新しい選択肢となり得ます。

- 本共同研究は、従来にない発想に基づき、新規なTYK2活性化化合物を同定することを目的としています。
- 本ポスターでは、既知のTYK2阻害剤の構造を改変することで新規TYK2活性化剤の取得に成功し、その活性化機構について、X線結晶構造解析およびモデル解析を用いて検討した結果を報告しました。
- 今回の結果は、TYK2を活性化する新しい薬の開発に役立つ重要な情報を提供するものです。



AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics
ポスター発表の様子

以上